

造影剤を使用した MRI 検査を受ける方へ

社会医療法人 恵佑会札幌病院

MRI 造影剤について

恵佑会で使用している MRI 造影剤はガドリニウム系造影剤です。

MRI 検査は造影剤を使用しなくても検査できますが、造影剤を使用して初めて診断が可能な病気もあります。

主治医が、造影剤を使用した MRI 画像で診断し、治療をする上で必要と判断した場合に使用します。

撮影前に静脈に造影剤を入れるためのプラスチックの管が付いた針を挿入します。そこから MRI 専用造影剤を入れます。造影剤は、ほとんどが 1 日以内に尿中、便中に排泄されます。

検査中はブザーをお渡しします。検査中に気分が悪くなったり、異常を感じた場合はお知らせ下さい。

造影剤の副作用について

造影剤は、副作用の少ない薬剤です。しかしまれに人によっては副作用が出る場合があります。

- 軽度・・・かゆみ・発疹・吐き気・嘔吐・頭痛（経過観察、もしくは場合によって治療の必要あり）
- 中等度・・・動悸・不整脈など（経過観察、もしくは場合によって治療の必要あり）
- 高度・・・アナフラキシーショック・呼吸困難・意識消失・血圧低下・腎不全など（治療が必要、入院処置が必要になる場合もあります）

非常にまれですが、症状・体質によっては約 100 万人に 1 人の割合 (0.0001%) で、死亡する場合がありますと報告されております。

造影剤による危険因子について

次のような患者様は副作用が発生しやすいので注意が必要です。事前にお知らせください。

- 以前に造影剤を使用した MRI 検査で、副作用が発生したことがある。（造影剤アレルギーが発生したことがある）
- 気管支喘息・小児喘息の既往がある。もしくは治療中である。
- 医師より腎臓の機能が悪いと診断をされている。（eGFR30ml/分/1.73 m²以下）
- 透析を受けている。
- アレルギーがある。

副作用発生時の準備や対策は万全を期しております。

万が一副作用が発生した場合は、症状により必要に応じて注射や点滴などの処置をします。

腎臓の機能が低下している、もしくは透析を受けている患者様におかれましては、ガドリニウム系造影剤の投与数日から数ヵ月後、時に数年後に皮膚腫脹、発赤、疼痛が発生する NSF という遅発性副作用の発生の可能性があります。

NSF は進行すると皮膚の硬化や石灰化等を生じ、関節が拘縮して高度の機能障害に陥り、死亡例も報告されています。

造影剤使用後の注意点

- 造影剤を出来るだけ早く体から排出するために、水分を多めに摂取してください。
- 造影剤使用検査後に発疹、発赤、蕁麻疹、悪心、嘔吐、血圧低下、頭痛などの症状が出現した場合は副作用の可能性があります。病院内の場合は近くのスタッフまでお知らせ下さい。帰宅途中、帰宅後の場合はすぐに当院までご連絡下さい。（造影剤投与後 1 時間～数日後にも症状の発現の可能性があります）
- 授乳中の患者様は、造影剤投与後 48 時間は授乳ができません。